

琉球列島宮古水納島の津波石

琉球大学理学部* 加藤祐三

Tsunami-stones at Miyako-Minna-jima Island, the Ryukyus

KATO, Yuzo

Fac. Sci., Univ. Ryukyus, Nishihara.

Okinawa, 903-0213 Japan

Several tsunami-stones were discovered at Miyako-Minna-jima Island, the Southern Ryukyus. The carbon-14 age on a boring clam, boring into a fresh coral of a tsunami-stone, was measured as 240 ± 60 BP, showing that the stone was derived from the Mēwa Tsunami (1771).

§ 1. はじめに

南琉球の宮古島と石垣島の間が多良間島があり、その北7km に宮古水納島がある(図1)。この島は行政上は宮古郡多良間村に属し、現在は1家族のみが居住している。琉球列島にはもう1つ、沖縄島本部半島西の瀬底島西方に水納島があり、両者を区別するために本論で扱う水納島は「宮古水納

島」または「多良間水納島」、後者は「本部水納島」と呼ばれることが多い。

本島は北西-南東方向に伸びた3角形をなす長さ3km の小島である。最高標高は島の南東部の13.2m 地点で、10m を越す場所はこの地点のほか、この南の、灯台のある南北方向の高まりと、島の西部の11.1m 地点の極く狭い部分に限られる。これらの部

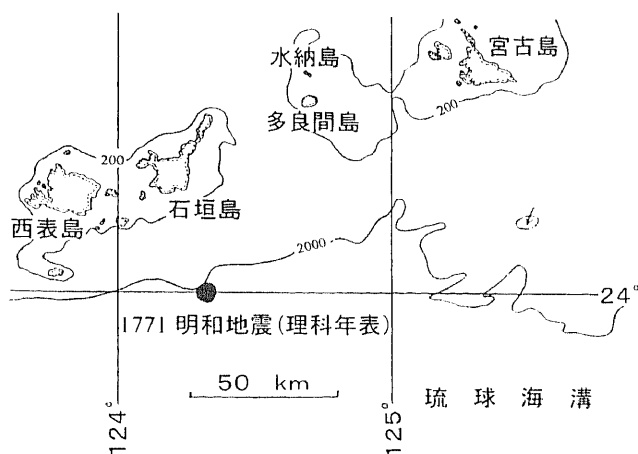


Fig. 1. Locality map of Miyako-Minna-jima Island.

* 〒903-0213 沖縄県西原町千原

E-mail: katoyuzo@sci. u-ryukyu. ac. jp

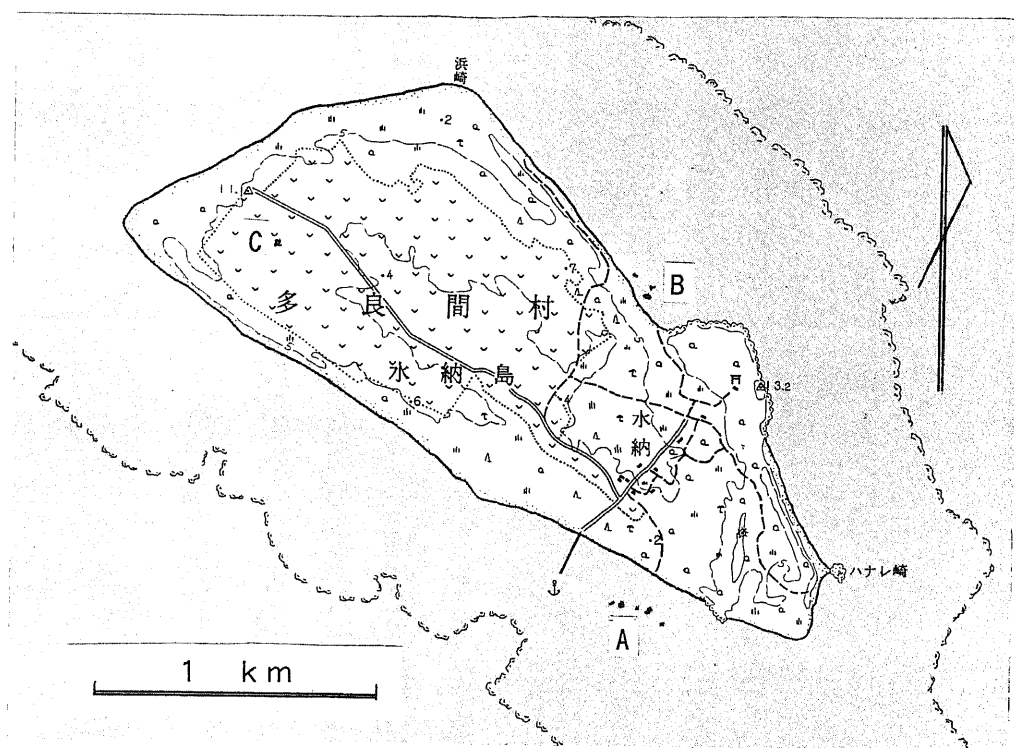


Fig. 2. Topography of Miyako-Minna-jima Isl. Distribution of the limestone blocks are shown.

分を除けば本島は一面ほぼ平坦である(図2)。このうち、港から遠くなく居住に適した地域は標高5-6mの高さにある。地質は琉球石灰岩とそれを覆う砂丘堆積物からなる。

§ 2. 明和の津波の被害状況

1771(明和8)年、琉球列島南部の八重山・宮古両諸島を「明和の津波」が襲い、全死者12,000人のうち宮古諸島での死者は全体の1/5に当たる2,500人に達した。この津波に関する水納島についての記録は『球陽』と『御問合書』にある。すなわち、『球陽』には「奈せん水納島は土地平坦にして、洪浪人家を過越し、尽く洗蕩せられて存する無し。大小の石塊白砂堆積して石原と為り、当今、村籍を置き難し。」とある。『御問合書』はこれよりやや詳しく、『球陽』の記述に加えて「人民害人も残不申」と生存

者がなかったことが明記されている。また、「井之儀も相崩跡方相見得不申」とも述べている。なお、いずれの文書にも、津波以前の人口は記載されていないため、死者の総数は不明である。

なお『御問合書』によれば多良間島ではこの津波で島民3,334人中362人が死亡した。

§ 3. 津波で動いた岩塊の分布

水納島には陸上と海岸に岩塊が多数分布している。このうち南海岸では港の東方に約180mに亘って10 t以上の岩塊が5個分布している(図2のA)。このうち港側の3個は新鮮なサンゴを含んでいるので津波石であると考えられる。これらの推定重量は東から順に 90, 240, 100 tである。残り2個の岩塊は琉球石灰岩であり、津波との関係は不明である。なお、1994年12月撮影

の空中写真では港の堤防内側に100 t 級と
思える岩塊 1 個が認められるが、現在進行
中の港湾工事で破壊されたと存在してい
ない。この最寄りの海岸に1-2 t に破
壊された、同質の新鮮なサンゴからなる、5
個の岩塊がある。これらは元の岩塊の一部
かも知れない。もしそうならこの失われた
岩塊は津波石であろう。

北海岸のうち港の北北東に当たる位置に
も岩塊が認められるが(図2のB)これは琉
球石灰岩であり、津波で移動したか否かは
分からない。

陸上に分布する岩塊は大部分が琉球石灰
岩からなり、人工的に移動または破壊され
たと思われるものが多い。このうち津波石
であることが明らかな岩塊 1 個が島の西方
で確認された(図2のC、図3)。

この岩塊は南海岸から300m、標高約7m
の地点にあり、高さ2-3m、推定重量約30t

である。岩塊は新鮮なサンゴからなり、こ
のサンゴに嵌入している16cm のヒメジャ
コを発見した。この貝は岩塊のなかで最も
若く、したがって、津波打上げの時期に最も
近い試料なので、これについてC14法によ
る年代測定を行った。

結果は 240 ± 60 yBP であり、誤差の範囲で
明和の津波と一致し、この岩塊が明和の津
波による津波石であることが確認された。

この岩塊が標高7m の位置に打ち上げら
れたことは、一面平坦なこの島で、標高5-6
m の居住地域が津波で洗われたことを意
味し、古文書の、生存者も人家もなく石や砂
が揚がっていた、との記述とよく一致する。
波は南の多良間島を襲った後、この島を乗
り越え、北に流れ去ったのであろう。

謝辞：シャコ貝の鑑定とヒメジャコについ
てご教示頂いた琉球大学理学部の山口正士
教授に感謝する。



Fig. 3. Tsunami-stone thrown
by Mōwa Tsunami (1771).
Block C in Fig. 2.